

CONTENTS 新春のつどいレポート おくさわ今と昔 懇談会報告 グリーンサムのお庭拝見  
(新連載)樹と人と 会からのお知らせ

### 新春のつどいレポート

## おくさわコンサート♪浦沢さんのピアノ & まちのはなし



土とみどりを守る会恒例の新春のつどいが、2月2日に奥沢東地区会館で開かれました。第一部は、新春のつどいにふさわしく、浦沢正恵さんのピアノ演奏で幕を開けました。会場に流れる素晴らしいメロディに参加者全員が豊かな音楽の世界を楽しみました。浦沢さんは学生時代に日本学生音楽コンクールで三位入賞の経歴を持つ優れた演奏者です。15年前からピアノ劇の創作もはじめています。その傍ら中高生に数学の指導をするなど、幅広い活動をなさっています。



ピアノ演奏に先立って、参加者全員が浦沢さんのピアノに合わせて「おぼろ月夜」を合唱しました。会場の参加者が心を一つにして唄った事で、会場の雰囲気はすっかり和やかになりました。浦沢さんはリストやショパンの名曲を演奏する前に、その曲の感じを分かりやすい言葉で解説されました。私たちが日常的に感じている事をその曲と重ねて想像できるような楽しい解説でしたので、演奏を聴きながら名曲がさらに身近に感じられて、とても楽しい演奏会となりました。電子ピアノは自由が丘の精琴堂楽器店からお借りました。

演奏曲目はリストの『演奏会用練習曲三番』、ショパンの『幻想即興曲』『アンダンテピアノとグランドポロネーズ』の三曲で、本格的な演奏を楽しんだ後、再び『故郷』と『のばら』を全員で合唱しました。久しぶりの小学唱歌に「50才位若返った」との感想も出る楽しい一時でした。ティータイムには大橋さん(中町)在住の手づくりクッキーを味わい、第二部に入りました。

第二部の様子(レポートは3ページをご覧ください)



# おくさわ今と昔



## 不便だったけれど

奥沢2丁目  
勝賀瀬佳久

私は、この地で生まれ、途中15年程地域外で生活しました。

物心が付いたときには、空襲の真っ最中でした。夜、見上げた空に探照燈の光の筋と、光るマッチ棒を整然と並べた筏のような光の集合体が漂い、ガソリンスタンドの匂いが満ち、木にはアルミ箔のテープが絡み付いている光景が記憶に残っています。

終戦で東京に戻り、我が家でもにわとりを4～5羽位飼い、南側の道路端にはささやかな畑がありました。小麦が小さな穂を付け、麦粒を噛んでいるとガムのようなになるので、小麦は子供たちの口に消えていきました。夏はニイニイ蝉、アブラ蝉がうるさく鳴き、ミンミン蝉とヒグラシ蝉の声は彩りを添える位でした。ご近所にはヒマラヤ杉やシュロ、欒や杉の木が誇らしげに聳え立っていました。

ギンヤンマ、オニヤンマといった大型のトンボも多かった。池のある庭が多く見られ、九品仏には大きな池があり、九品仏川が呑川まで流れていました。水草が流れにただよい、魚やエビガニの姿も見えるきれいな小川でした。

日の出直後、日没前に九品仏の森をねぐらにするスズメの大群が上空を西から東、東から西へと通りすぎていきました。今は東京工業大学をねぐらにしているインコの群に変わっています。

紙芝居の拍子木、金魚屋の売り声に耳をすませます。鋳掛け屋\*1、ラオ屋\*2がリヤカーを止めて作業をしていました。汲取桶を積んだ荷車を引く馬が電信柱に繋がれています。これを見ているのも楽しみの一つでした。セミやトンボ採りに夢中になっていると、一日はあっという間に暮れていきました。昭和20年代の様子です。

定年で職を離れ、当時とは大きく変わった生活の中で、セミやトンボ採りに夢中になれた環境を懐かしく思い出しております。

\*1[鋳掛け屋] はんだなどで、鍋・釜など金属製の器具の傷んだ所を修繕する人。

\*2[ラオ屋] キセルの雁首と吸い口をつなぐ竹の管のことをラウと呼ぶことから、キセルの手入れ・掃除をする人。

このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方と新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、このまちにちなんだエピソードを語っていただきます。

## 奥沢2丁目、 3月のある日

奥沢2丁目  
古田中みどり

朝、9時。やっと、家族がみんなバタバタと出かけて行った。きょうもよく晴れて、このシーツを二枚干し終わったら、犬と散歩に行こうかな。ベランダで洗濯物を干していると、どこかで植木屋さんの話し声。ハサミのチョコチョコキ。うぐいすのホーホケキョが聞こえる。空気はゆったりとして、あまり動こうとはしない。ずっと遠くで、ヘリコプターの音がしている。空はどこまでも広がっていて、風はかすかな沈丁花の匂いを、どこからか運んでくる。私はいい気分になって、お気に入りのCDをかけ、コーヒーをいれて、もうすっかり犬の散歩のことは忘れてしまっている。娘の食べ残した、パンケーキのかけらを口に放り込み、コーヒーを飲む。さあて、掃除機でもかけるかあ、ってな具合で朝の作業は遅々として進まない。私はそれを、この辺りの空気のせいだと思うことにする。CDが一枚を終わる頃、犬の視線を感じ、そうさそうさ、散歩だ。はいはい、今行きますよって。そう思ったとたん、犬はウオウウオウとえらい騒ぎになる。どうやら、犬は人の心が読めるらしい。さて、犬と散歩にでてみると、緑が丘から続く緑道のサクラのつぼみが、きのうよりさらに膨らんでいた。犬も連れていてすごくいいことは、こうしてぼうっとまわりを眺めていても、犬と一緒になら変な人に思われる心配がないということ。そして、ぼうっとしていると、大きなサクラの幹の下の方にたったひとつだけ、ぽっこり花がさいているのを見つけたりする。この日、私は、この緑道沿いに住む、小さなしゅうこちゃんと知り合いになり、一緒にこのサクラの花を見つけた。それを見て、しゅうこちゃんは、ねえねえ、こんどね、うちにも赤ちゃんが産まれるんだあ。と、うれしそうに笑った。



街並み選奨より 2丁目32-6 渡辺邸

## 新春のつどいレポート2

### 懇談会報告～まちのはなし～

#### 会の活動報告から

第二部では、今、土とみどりを守る会が進めている活動について、スライドを使って近藤さんが説明しました。「街並みは住民が作り育てる」との考えから、「環境プラン」の実現に向けての2つの取り組みが示されました。

まち歩きを経て選んだ奥沢にある樹木の内21本を「第一回推奨樹木」に指定。持ち主に意義を話し同意を得た上で、銘板を付けて、住民の関心や愛情を育てることで街の美化や樹木の保存につなげる。街並みに優れた効果を与えている印象的な住まいや木立など、15カ所を取り上げ「街並み選奨」とした。住民が街並みを見て「ここを大切にしよう」と思う所を選んだ。

歴史的な古い物を保存する事も大切だが、新しい街並みも選んでいる - と堀内さんが補足説明。単なる保存ではなく未来に向けた活動であることを解説しました。

続いて「大ケヤキのある散歩道」が風景資産として世田谷区に認定されたとの報告が長瀬さんからありました。

#### ゲストの方のお話から

次に、この会の活動に関心をもってお越しいただいた奥沢地区住民以外のゲストの方々 - 松田宏さん、小西さん、川口さんの三人が紹介されました。

松田さんは成城に住み、世田谷の街並み保存再生の会をはじめ、様々な街づくり活動の経験豊かなリーダーの方です。戦前から奥沢の良さに注目してきました。大きなケヤキの木が残り、世田谷区に多く見られたモズもいる。伝説と歴史を語るさぎ草の話もある。街並みの中に小さな店も点在する。時には木や花にメッセージが付けてあるが、こうした言葉の発信もおもしろい。どんな人が住んでいるのかが分かればもっと素晴らしい街になる、と実際の観察を元に意見を述べました。

小西さんは「玉川まちづくりハウス」の立場から玉川田園調布の街づくりについてのご経験を報告。900軒の街だが、宅地の細分化で街並みが壊れてしまわないように、敷地を130～160㎡以上にするとか道路から1～2mの後退するなどを決めた「まちづくり協定」、「地区計画」を2000年に作ったと、地区計画を中心にした活動のご経験について語り、よいお手本として、土とみどりを守る会が学ぶべき部分を示してくださいました。

川口さんは街づくりを研究している東工大の大学院生で「インターン」として会の活動に参加していただいている方。都会は地方の町と違って住んでいる所への愛着が弱い。しかし奥沢には緑や住環境で貴重な財産になるものがある。「地域資源」という考え方もあり、人的資源も含めて地域を考えている。この会も若い人や子供が気楽に参加して、楽しみながら街づくりにかかわれるようになれば - と貴重な問題提起をいただきました。

堀内さんは、新しい建築物が出来る時には持ち主や建築する人に「街並づくり」の理解を求めて話し合いを持つとうと働きかけるが、どんな団体が分からないと業者が話を聴かない。地域のまちづくり活動を進めていく上で、役所が認める団体になることの意義は大きい。町会と協力することも必要で交流を深めるために会として祭りに参加する事も予定している。街の資源として、建築家や法律家などの専門家を結びつける事も大切になる、と住民と協力しながら役所や町会との連携も視野に入れた活動についての展望を語りました。

#### 参加者のお話から

この後、参加者の意見や質問、みどりを守るための悩みごとなどについての話題が活発に交わされました。

「ピラカンサのきれいな実に、群がって来る鳥の糞で近隣の駐車場の車が汚されるという苦情がすごい。見事な街並みだが「木を切れ」との脅迫もあり困っている。」

「ケヤキの落ち葉に対しても近所から苦情が絶えない。掃除や雨樋の詰まりなどで苦情が来るので精神的にまいっている。」

「見事な桜の木をめぐる隣が訴訟を起こすとまで言ってきた。」

他にも大木の枯葉や枝に関する近隣とのトラブルについて、近藤さんが意見を述べました。

「推奨樹木」の活動に対する考え方のポイントは街や環境に対して良いことをしているという自信を持てるように樹木の所有者を勇気づける  
回りと連帯の気持ちが出来ると土とみどりの会が間に入る事でトラブルにも対応しやすくなる

- などで。事実、会が中に入って解決した問題もいくつかあります。自然の美しさや緑の環境が、子どもや人間の気持ちに大きな影響を与えている事が見えないために、落ち葉や鳥の糞などのマイナス面だけを取り上げて苦情を言う人が多くいます。近所の人を集めて話することで、意識が変わり理解が得られるようになった経験も話されました。

「桜の枝が隣家に伸び、訴訟の話まで出て枝を切り落としたときには、腕を切られるように辛かった。物言わぬ緑の命を大切にすることを子どもの頃に植え付けることが大切と思い、小学校で生徒と一緒に野菜作りをして命の大切さを教えている。」  
「子どもの通学路に面している木には、みんな名札を付けたい。子どもがその名を口ずさんで親しみを持ち、草木に興味湧くと思う。」

等々、たくさん話題が出ました。全部をここに紹介できなくて残念ですが、楽しい交流と共に活動の具体的な内容がはっきりと確認された、意義のある新年のつどいとなりました。参加者は46人でした。

(今井)

## グリーンサムのお庭拝見 Vol.10

梅の花が薫ようになった2月の中頃、2の24、鈴木さん宅をお訪ねしました。

「とてもお見せ出来る様な庭ではございません」と謙遜なさいますが、バス通りから塀を隔てただけでそこには趣のある和風庭園の別世界が広がっていました。

昭和7年頃。御主人様の御両親が家を建てて住まわれた頃に植えた木々が殆どだそう。お庭は住居を建て直された時に大分小さくなったそう。両側に山茶花、椿、桜、夾竹桃、イチイ、西には3本程の椎等がどれも太く立派で風格がありよく手入れされています。「広い芝生の中に花壇のあるお庭で育ったせいか、木ばかりの庭には今一つ馴染めなくて」とおっしゃいます。東側の門扉近くと庭の中央より西側に見事な赤松が2本。「以前は植木屋さんが本に4日かけて刈り込んでいたのに、最近では1日で終えてしまうので木の勢いがなくなったのか、虫が付いたのか心配です」とおっしゃるところは

充分木々に愛情がおありとお見受けいたしました。椎の木、桜には毎年小鳥が巣を作るそうです。「最近では巣作りにはビニール袋等を使っています」と複雑なお顔をされました。たまたま枯れる木があっても小鳥が運んでくれた木が殖えていますとのこと。

庭の中程、西側のふちに石燈籠を置いてまるやかな大きな石で囲んだ池は、心字池風に見えます。今はこの池も大分乾燥してきた様で自然に少し埋まって枯山水風になっています。池の南側にはあじさい、東側には芽吹き時盛りの時も赤く、そしてさらにあざやかな紅葉で散る、葉の切れ込みが深いもみじ、西側にはグリーンのもみじ、手前にはさつき、つつじ、大むらさき、くちなしと四季折々楽しめます。玄関脇には高さ1m、巾1.5mくらいに整えられたくちなしがああります。門扉のそばにはお正月の寄せ植えを地に移した梅が、2m近くになり、沢山の花を咲かせていました。お姿もお言葉も美しい奥様と梅の香に送られて、何故かなつかしく心休まるお庭に、おいとまをしました。(立花)

## 樹と人と

推奨樹木の持ち主の方に、木まつわる話・木への思いを語っていただくコーナーです。(毛利)

### 大ケヤキ + 近藤泰夫さん(奥沢2丁目)

「伯父の後を引き継いで30年以上、この櫻と一緒に暮らしています。近年この界隈の樹木が次々に伐採され、特に樹木について意識するようになりました。落ち葉公害などと言われ、所有者は小さくなっています。自分が住んでいる地域を人間的にどう過ごしていけるかというところから、環境に目がいて人にも木にも優しくできるのではないかと考えたりしています。光に力が満ちてくるとやがて樹は芽吹き、新緑の上を風がわたるようになると風が薫るような感じられます。夏は大きな木陰をつくり、そして秋の黄葉。黄金の針にまごう葉漏れ日、11月末から2週間ばかりかけての落葉と、四季それぞれの変化を見せてくれます。樹齢250年余とされていますが、まだ樹勢は元気だそうです。」



### ソメイヨシノ + 坂内和典さん(奥沢3丁目)

「庭にある木々は、永い年月家族と共に四季の移り変わりの中で人の生活になくてはならないものとして生きてきました。春一斉に開花し家族や近くの人々を和ませてくれる桜は、一年間蓄えたエネルギーを余すところなく出し切って花を見せてくれます。花を楽しむ人は短い間に散る花を惜しみ、花は次の春に必ず見て下さいとささやきます。桜はこの期待に応えようとして再び懸命にエネルギーを貯えていきます。或る時はすさまじい嵐に耐え更に夏の酷暑を凌ぎながら春を待つ、この待つ間の静かなささやきは、耳ではなくて心とおしむ人の心にきこえてくるのです。」



## 会からのお知らせ

○春のつどいは、5月17日(土)午後1時半から奥沢東地区会館で開きます。第1部のおくさわコンサートは、ソプラノの栗原愛子さん(奥沢2丁目在住)の歌声をお楽しみいただきます。第2部は「経堂の杜」などを作られた甲斐徹郎さんを講師にお招きし、環境と調和した住まいづくりについてのお話をうかがう予定です。○街角掲示板第4号を、2丁目21の立花さん横に作りました。「バザーのお誘い」「お譲します」「探しています」などのお知らせに、他の3ヶ所と共にご活用下さい。

○土とみどりを守る会は、4月から会費によって運営される団体となります。活動の基になる会費は年間1口1,000円です。早速沢山の方にお申し込みいただきましたが、どうぞ皆様の御協力をお願い申し上げます。振替用紙をお届けしますのでご連絡下さい。

### 編集後記

遊歩道の桜が満開になり、お花見の季節になりました。寒さに縮こまった体を伸ばして、桜を見上げながら歩けば心も豊かに前向きになります。暗い出来事の多い世の中、せめてこのまちの季節の移ろいを見て心を癒し、明るく暮らしたいと思います。

### 土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢2-19-9 長瀬雅義 5729-0126  
世田谷区奥沢2-41-2 柳島尚子 3718-8558